

北陸民放クラブだより

福井

SP盤を聴きながら「干し柿作り」に挑戦〜秋の幸楽会〜

小川 忍 (FTB)

昨年10月19日、JR越前東郷駅前(福井市東郷二ヶ町)にある「こびり庵」に会員23名がそれぞれ包丁を手に集まりました。

クラブ恒例行事・幸楽会としては初の企画「干し柿作り」に挑戦するためです。



干し柿づくりの一コマ

和夫氏ら数人が5年前に立ち上げ、去年1月にリニューアルした喫茶&スナックで、「俳句の会」の勉強会場でもあります。

会はず、中野会長が「先の世界少年野球富山大会で当クラブから贈ったアオダモに対し今回も王貞治氏から感謝状を頂いた。

会場の「こびり庵」は地元地域の地味なおこしのため、に会員の中村

また今日の干し柿作りは、費用のかかるバスツアーをやめて企画したものです。10日もすれば美味しい干し柿になります」との挨拶があり、参加者は、早速会長の指導のもとで皮むきに挑戦。普段から使いなれた包丁ということもあり、皆なかなか腕前で割り当ての12個を見事に「干し柿」に仕上げていました。続いて500枚以上あると言うSP盤から懐かしい数曲を選び音器で再生、針音の混ざる音色を聴きながら、特製コロッケ定食に舌つづみを打っていました。途中、中村氏の包丁研ぎのサーブスや村田浩氏の指導による俳句に全員が挑むなど、楽しい雰囲気

富山 万葉部会からの発信

県西部の秋の風物詩《高岡・万葉集全20巻朗唱の会》が10月7日、古城公園で開幕し、万葉集全4516首を三昼夜リレー形式で歌い継がれました。

高岡は大伴家持が越中国守とし

て赴任したゆかりの地。今回も全国各地から2千人以上がエントリし、当クラブも初日に9名が参加。午後3時半より割り当てられた305番から327番までの23首を声高々に朗唱しました。318首目はご存知の『田子の浦ゆ打ち出て見れば真白にそ不盡の高嶺に雪は降りける』不盡のくける』



朗唱の会のステージ

お堀に映る特設水上舞台と天平の衣装もさることながら、美声を誇る当クラブのメンバーに観客から惜しみない拍手が贈られました。

秋の夜長の打ち上げ会は16名に増え美酒に酔いしれました。今年には多彩な記念イベントが組まれます。全国の民放クラブの皆さま、一生の思い出に奮ってエントリーしてみませんか。

石川

秋のバス旅行

渡邊 俊介 (MRO)

松茸、紅葉、みかん狩りなどと

盛り沢山の内容に誘われ、11月13日、「丹後路の旅」を楽しみました。「石川」では毎年、能登の祭りを巡る旅を企画。富山・福井からの参加もあって好評です。

しかし北陸新幹線開通で観光客があふれ、旅行手配が大変に！そこで今回はバス会社の企画を利用しました。日帰りとなつて家族連れなど18名が参加しました。まずは、日本三景・天の橋立へ。



松茸御膳昼食

一つは食事。松茸の香りを満喫しました。

食い気だけではありません。紅葉の成相寺、「三人寄れば文殊の智慧」の智恵寺なども巡り、最後はミカン狩りで終了。

帰りはミカンを食べながらバスの旅を終えました。今後は手軽な旅を増やし、会員の親睦を深めていきたいと思っています。